

平成9年10月28日
気象庁予報部

配信資料に関する技術情報（気象編）第28号

—降水量ガイダンスデータの内容の変更について—

これまで降水量ガイダンスは、1mm単位で国内二進形式格子点資料通報式を用いて配信してきました。

雨の予報では降水量が当該予報期間で1mm以上と予想したときに雨と予報していますが、雪の予報では分布予報において、0.5mm程度以上の降水が予想された場合、雪と予報しています。また、予報で小雨と表現している1mmに満たない弱い雨でも重要な場合があります。

このため、先の気象庁配信データ利用者協議会等でご案内しましたとおり、降水量ガイダンスを0.5mmきざみで通報することとします。実施日は、平成9年12月1日とします。

変更の内容等は、下記のとおりです。

なお、地方ガイダンス（気象業務支援センター（地方）から配信）は、変更ありません。（従来どおり、尺度因子は「0」です。）

記

- 1 変更時期：平成9年12月1日00UTC初期値
- 2 変更内容：降水量ガイダンスデータの尺度因子を0から-1（16進表記：8001）に変更します。「1」と報じられる事項は、これまで「 $1 \times 2^0 \text{ mm}$ 」すなわち1mmを表していましたが、今後は「 $1 \times 2^{-1} \text{ mm}$ 」すなわち0.5mmを表すこととなります。
尺度因子については、平成8年8月28日付の配信資料に関する技術情報（気象編）第3号別紙4-4「国内気象通報式」を参照して下さい。
- 3 変更となる電文の配信ヘッダ名：KQA@ii RJTD
（@：C～T、ii：01～25）
同電文に含まれる天気ガイダンスおよび降水確率ガイダンスについては、変更はありません。

以上